

小中学生の学力の実態と対応について

1 学力の実態

(1) 平成 28 年度全国学力・学習状況調査(H28 年 4 月 19 日 実施)

① 教科別の正答率 < A : 主として知識を問う問題 B : 主として活用を問う問題 >

小学校 6 年			
	全 国	糸魚川市	比較
国語A	72.9	75.7	+2.8
国語B	57.8	55.9	-1.9
算数A	77.6	78.8	+1.2
算数B	47.2	44.0	-3.2

中学校 3 年			
	全 国	糸魚川市	比較
国語A	75.6	76.8	+1.2
国語B	66.5	66.1	-0.4
数学A	62.2	62.5	+0.3
数学B	44.1	42.1	-2.0

※ 国語A、算数A、数学AのA問題は、主として「知識」を問う問題です。

身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などが、問われます。

※ 国語B、算数B、数学BのB問題は、主として「活用」する力を問う問題です。

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価、改善する力などが、問われます。

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果

ア 調査結果

(別紙)

イ 成果が顕著な主な項目

- ・「朝食を毎日食べています」の割合が9割以上であり、良い傾向を継承している。
- ・平日 23 時まで寝る小中学生の比率が高い。(小学校+8.9 ポイント 中学校+17.1 ポイント)
- ・「今住んでいる地域の行事に参加しています」の割合が依然として高く、郷土を愛する心が育っている。(全国比で小学校で+21.2 ポイント 中学校で+13.7 ポイント)

ウ 課題が顕著な主な項目

- ・平日に読書をする時間が 30 分以上の児童が昨年度より 6.4 ポイント減り、全国比でも 6.1 ポイント低い。読書離れが急激に進んでいることが分かる。
- ・中学生の授業以外の学習時間が、昨年より下がる傾向にある。全国との比較でも 13.2~19.9 ポイントと非常に低い。(平日も、休日も) 復習や予習をしている割合も全国や県に比べ低い傾向にある。

(2) 平成28年度 標準学力検査 (NRT) (H28年4月実施)

① 教科別の偏差値

小学校6年(学習内容は5年)			
	全国	糸魚川市	比較
国語	50.0	52.1	+2.1
社会	50.0	51.4	+1.4
算数	50.0	53.7	+3.7
理科	50.0	52.3	+2.3
H28教科総合	50.0	52.5	+2.5
H27	50.0	51.1	+1.1
総合計画目標値		55.0	

中学校3年(学習内容は2年)			
	全国	糸魚川市	比較
国語	50.0	50.9	+0.9
社会	50.0	51.0	+1.0
数学	50.0	48.6	-1.4
理科	50.0	48.1	-1.9
英語	50.0	49.9	-0.1
H28教科総合	50.0	49.7	-0.3
H27	50.0	48.9	-1.1
総合計画目標値		52.0	

2 分析・課題

(1) 成果

全国学力・学習状況調査(以下、全国学テ)の教科の結果、および標準学力検査結果(以下、NRT)ともに、小学校・中学校ともに昨年度より向上した。(小学校 H27 51.1→H28 52.5 中学校 H27 48.9→H28 49.7)各学校での様々な取組が効果を表しつつある。

全国学テの教科の結果より、小学校・中学校ともにA学力では全国を上回った。

全国学テの質問紙調査の結果から、生活習慣(朝食接種、寝る時間等)や郷土愛の醸成(地域行事への参加率)は依然、高い傾向にある。

(2) 分析・課題

全国学テのA学力結果は、小学校・中学校ともに全国を上回っているが、B学力結果で下回っている。B学力の向上は、小学校・中学校に共通した課題である。全国学テのB問題は、長文で難解な問題文を読み取れるかどうかは課題である。長文問題への慣れとともに、日常、文字に触れる時間を増やせるよう読書時間を増やす取組が必要である。

特に、全国学テの、算数・数学のB問題で、全国との差が大きい。

また、NRTの結果より中学校の数学・理科が低く、特に理科の授業改善の取組が必要である。

全国学テ、またNRTの結果は前年度に比べ向上した。今後も「3学力向上対策」以下の学力向上に向けた取組を引き続き推進する。

3 学力向上対策

(1) 今年度の経過

①学力向上プロジェクト会議による授業改善対策の検討

市教委提案「授業改善チェックリスト」の内容に基づき、市内一斉取組事項を設定した。

ア「本時の課題(ねらい)」を板書し、児童生徒の理解を促す。

イ「本時のまとめ」を板書し、学習内容の確認を行う。

ウ 児童生徒同士のかかわる場面を学級の実態や学習内容に応じて設ける。

②陰山メソッド（徹底反復学習による集中力の向上）の導入と実施

基礎学力の向上及び集中力養成のために、各学校の実情に応じ、10～15分程度の特設時間（モジュールタイム）や授業開始時間を使って百マス計算や音読、漢字などの取組を進めた。

ア 実践校を中核とした取組

- ・実践校3校（糸魚川東小、大野小、田沢小）を指定し、成果と課題の情報提供を行った。

イ 陰山氏を講師とした研修会の開催

- | | | |
|-----|----------|------------------------------------|
| 第1回 | 4月13日（水） | 管理職対象の概要説明、陰山氏による講演 |
| 第2回 | 9月13日（火） | 糸魚川東小学校 6年生への模擬授業、講演 |
| 第3回 | 12月7日（水） | 田沢小学校にて全学級の授業参観と助言
3年生への模擬授業、講演 |
| 第4回 | 1月11日（水） | 大野小学校にて全学級の授業参観と助言
5年生への模擬授業、講演 |

- ・研修会では、全学級の授業参観をとおして、授業改善の視点を伝えてもらった。

例；机間指導を頻繁に行い、腰を屈めて子どものノートを見ているか。

月に一冊ノートが終わるペースで授業中に書かせているか。 など

③ 中学校補充学習の実施

週一回、長期休業中または定期テスト前に日々の学習を補う時間を設定し、少人数の生徒に対して外部指導者による学習指導を実施した。（数学、英語）

（2）取組の成果と課題

○授業者・児童生徒ともに、時間を区切った活動で集中力を高めようとする授業が多く見られるようになった。

●中学校補充学習では、指導者不足のため、実施回数が不十分であった。今後、指導者の確保が課題である。

（3）次年度の取組

①全市一斉授業改善の推進

- ・「課題」「まとめ」のプレートを全教室に配置し確実に活用する。これにより、視覚的に分かりやすい授業を全市で推進する。

②集中と徹底反復による基礎・基本の定着

- ・小学校においてモジュールタイムを設定し、百マス計算、漢字学習、音読等の実践を進める。
- ・実践校3校の取組を市内全小学校に広め、今後3年間陰山メソッドによる学習を進める。

③補充学習の小学校への拡充

- ・中学校での補充学習を小学校にも拡充し、本人希望及び担任推薦による児童を対象に、週1回程度実施する。

④英語学習の実践的研修の実施

- ・小学校実践モデル校2校を中心とした英語授業の公開、上越教育事務所重点地区訪問（英語）により、小中（高）連携した研修を実施する。